



APOLLO
MEDICAL HOLDINGS

海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



視察内容

視察地:ロサンゼルス

日程: 2017年6月3日～6月9日

1日目オリエンテーション
HMIセミナーの目的
ケーススタディの概要



2日目市内視察

3日目座学

- 医療保険の概要
- PBMについて
- リフィル処方について
- 薬局の形態について



4日目視察

- 大手チェーン薬局視察
CVS:大型ドラッグストア RiteAid:大型ドラッグストア
- 病院視察 (Fountain Valley Regional Hospital)
- リテール薬局視察 (AltaMed Pharmacy)
- クローズド薬局 (メールオーダー薬局と
スペシャリティ薬局) 視察

5日目ケーススタディ発表

視察内容

■リフィル処方について

アメリカではリフィル処方の制度があり、症状が安定した患者に対して1度に処方できる量、有効期限、調剤できる回数などを医師が決めて処方箋を発行。患者はこの処方箋を薬局に預けることで次から医師の診察を受けずとも薬局からすぐに薬をもらうことができる仕組み。リフィル処方では期間が空いていないともらえず、概ね66%~70%の薬が服用されていないともらえない。例を挙げると1か月処方でも5か月分使えるリフィルの場合、患者は1回目に薬局で1か月分の薬をもらう。その10日後に2か月目の薬をもらおうとしても、もらうのが早すぎるという理由でPBMがブロックをかける。リフィル処方箋の期限が切れた場合は薬局から医師に連絡して新しいリフィル処方箋を送ってもらう。(医師への連絡はテクニシャンでも実施可能。1週間くらいかかることもある)日本でもリフィル処方の話題が出ているが感じたのはアメリカではPBMが機能しているため、ブロックがかかるが今の日本では第3者機関がない為、導入が難しいのではとアメリカの現場を見て感じました。

ケーススタディ発表

前日までチーム毎で夕食を共に行動をしてケーススタディについて話し合いの時間を作り、解決策について話し合いました。日本でもこれだけ自分の薬局の改善策を話し合うことはなく、当日もデータを作成してケーススタディの戦略提案プレゼンをしました。



参加者からの感想

今回のアメリカ研修で感じたのはアメリカは全てにおいて合理的な考えで社会が成り立っていると感じました。日本で医療費削減問題に直面しているが、保険制度をそのまま日本に取り入れるのは簡単ではないが取り入れるべき考えは多いと思いました。薬局は医師やPBMに認めてもらう為に努力を惜しまない。リスクを取らないと利益は出ないという考えは経営面でとても勉強になりました。薬局を取り巻く環境は厳しいですが、与えられた環境の中で、これからの薬局に活かしていきたいと思います。

